

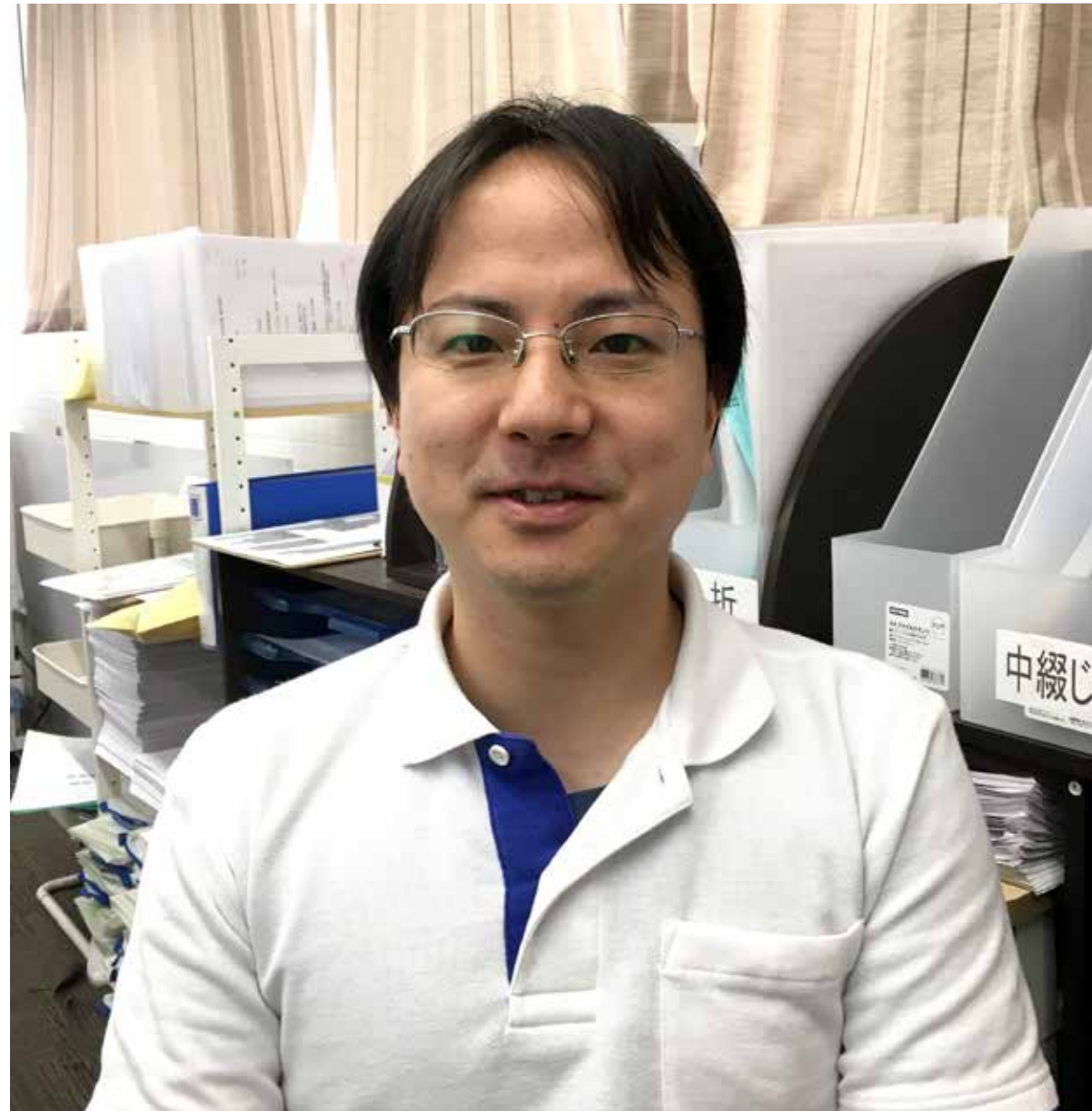
チム九

印刷を支え加工を活かす

月岡達也

工場本部
瓜破工場 副工場長

1963年(昭和38年)の創業から、お客様の細部にわたるニーズに応えるため高い品質とスピーディーな納期を心がける、旭紙工業株式会社。今回は2000年(平成12年)に新卒で入社し、現在は工場本部瓜破工場副工場長を務める月岡達也さんに、これまでの経歴と今後の目標を伺いました。



——まずは入社のお仕事内容について教えてください。

入社を決めたのは、工場見学の影響が大きかったですね。家から近い場所に勤務希望だったので、何社か見学をしていました。旭紙工は若い人が多く活気があり、楽しそうな雰囲気を感じたのを覚えています。新卒で入社し、数年後に当時の課長が退社されたのを機に後任を務めました。2年前に瓜破工場の副工場長に任命され、紙工部の断裁部門・折部門を重点的に見ています。

——課長から副工場長という立場になられて、心境の変化はありましたか？

責任はこれまで以上に感じています。課長の時は折部門のみの管理でしたが、今は断裁部門・折部門が管理下にあります。自分がかつて作業していた場所なので、折部門に時間を割くことが多いですが、断裁部門の進行状況もチェックするようになりました。

心がけているのは、部下たちから相談を受けた際にきちんと対応

機械のセッティングを誤って不良を出した際や嫌な気持ちになった時は、辞めたいという気持ちになることもあります。ですが「辞めたい」と口に出したことはありません。私が辞めるのは簡単ですが、大変だから辞めるとなれば、それを丸々被るのは部下になりません。私自身、上司が辞めた際大変でしたので、部下に同じ思いをさせたくないという気持ちは常にあります。

——最後に、今後の目標をお願いいたします。

段取り通りに作業が進んだ時、やりがいを感じます。私が部下たちにそれぞれ仕事を割り振るので、一日順序良く進み、次の日進捗状況を見てきちんと生産が上がっている、喜びを感じますね。これまでは事務の管理の方に難しい部分があつて時間を取られていたのですが、少し慣れてきました。今はまだ折部門に多く時間を割いていますが、紙工部全体が管理下なので、断裁部門と両立してきちんと管理できるようになることが目標です。

——これまでで、自慢できる成果やこだわったお仕事があれば教えてください。

機械でできず手作業で行っていた複雑な折があつたのですが、それに対応できる機械を作ったことが印象深いです。住吉元専務(現在は退社)と河井常務の協力を得て、実現することができました。10年ほど前まで、そうした機械はありませんでした。時間が短縮され人手も他へ回すことができ、仕

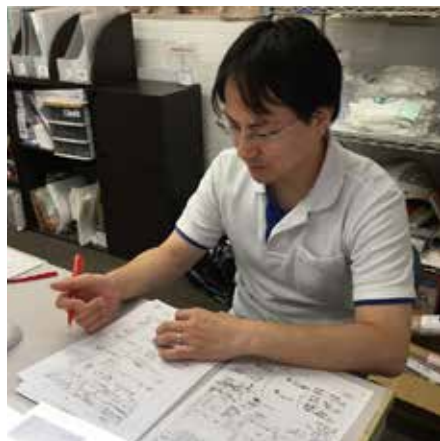


事が上手く回り利益に繋がりました。今もその機械の管理をしています。

また、成果だと思っているのは時間を把握して仕事ができるようになったことです。私が入社した当時には、「その日の予定」というものはありませんでした。上司に言われるまま働き、今日は何だか作業を進める必要があるのか、何時に帰れるのか全く分からず深夜まで仕事をする生活が繰り返されてきました。そんな状態を解消したくて、課長を任されてから周囲の力も借り、3〜4日先の予定を組んでそれに沿い作業を進めることにしました。それまでは先の見えない仕事に精神的にも疲弊する部分があつたのですが、予定があればトラブルに見舞われて帰りが遅くなったとしても、「今日やらなければならぬ分だから」と納得できます。また「これだけやれば帰れる」とその日のノルマが目に見えているので、モチベーションも上がりますよね。

——そのような成果を挙げた月岡さんが、思わず辞めたくなくなった瞬間などはありますか？

——



「プライベートでは週三回ジムに通うことが目標です」と語る月岡さん。体調を崩して周囲に迷惑をかけたくないと、体のケアに気を遣っているそうです。自らの体験を活かし、職場環境をより良くしようと働きかける様子が伝わってきました。今後もその向上心で、周囲を力強く牽引していかれることでしょう。

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績

The FOCUS

本社工場 マルチ部門 編



私が
紹介します

工場本部 本社工場課長
松尾 剛志さん



業務内容

主にカレンダーの製本を行っています。カレンダーはシーズンものの商品ですので時期によって忙しさが違います。従って、少ないときは3名、9月～11月の繁忙期は他の部門からも応援を頂きつつ、30～40名程度で仕事をしています。

部門の好きなところ

好きというのとは少し違うかもしれませんが、職場のコミュニケーションなど不足している部分について、他の社員の方がフォローしてくれるのは非常に助かっています。仕事の進捗のカバーなどに限らず、例えば新人を教えたり、プライベートな相談に乗ったりという形で、助け合う関係性があるのは非常に良いと思っています。

思い出深いエピソード

毎年同じようなことをやっていますので、思い出深いエピソードはないとも言えますし、逆に毎年が思い出深いエピソードだらけだとも言えますね(笑) というのも、やはり繁忙期などは家に帰らずに仕事をしたり、そもそも他の部門から手を借りて作業を進めたりすることもしばしばですので、皆に苦労をかけているという気持ちが常にあるためです。その時期は皆も休みなく働きますので、終盤に差し掛かる頃にはいわば全員満身創痍であるとも言えますし、その意味で印象的です(笑)

部門の大変なこと

私自身の話で言えば、リソースをどこに割くのか、というバランスの取り方でしょうか。私は目に見えて手の足りていない、あるいは急ぎのところに対して、自ら手を動かしてしまいがちなのですが、そうすると全体の細かいところにまで目が届かなくなる、というジレンマがありますね。その点、現場で手を動かしている方とのコミュニケーションがポイントになってくるかなと思います。

工夫していること

工夫というほど大げさなものではないですが、嶋さんや梅垣さん、加えて同じく仕事のできる5年目のベトナムの子には1日の仕事の流れを伝えて、何かあれば報告してもらうような形を取っています。これはどうしても私の見られない部分に関して、代わりに臨機応変に見てもらえることもできる、といった体制を作るという意味で行っています。

やりがい

正直な話、まだまだやりがいというものを感ずるには道半ばというところでしょうか。カレンダーというのは比較的単価も高く、利益率も大きいので、一年を通した売上に関しても高い基準を求められます。要は常に上を目指している状態です。その中で皆が満足できるような待遇、例えばお給料や賞与などが十分かと言われるとまだまだだろうとは思っているので、これらを実現できたときに初めて、私自身もやりがいというのを感ずられるのかなと思いますね。

マルチ部門

活躍している社員

嶋さん



30年来のベテラン社員です。主に丁合を担当しています。ももとの声量が大きくて、新しく来た人は怒られていると感じてしまうこともあるようです(笑)ただ、現場には色々な国籍の人がいる分、彼らとの身振り手振りなどを使ったコミュニケーションには長けているのかなと思いますね。また、自分の言いたいことははっきり言える方で、会社のルール等についてもしっかりと指導しています。

梅垣さん



入社して10年ほどになる社員です。主にリング関係を担当しています。どのような性格か言えば、気分屋でしょうか(笑)機嫌の良いときと悪いときははっきりしているかもしれません(笑)その点、私と似ていて、私のテンションの低いときにそのフォローしてくれつつ、言いたいことは言い合える関係を築けているように思います。やはり上っ面だけの関係性というのは疲れてしまいますので、素直に腹を割って話す間柄であることは日頃から心がけています。

他の部門へのメッセージ

繁忙期のときには他の部署も忙しい中、手を貸してくださっているのは感謝しかありません。急に手が欲しいというときにも何とか対応していただくこともありますし、本当に助かっています。シーズンが終われば、こちらも人手を出せることもありますが、引き続き助け合いの関係を続けていければと思っています。

今後の目標

直近の目標で言えば、とにかく効率化を図ることです。品物の入れ替え等、機械を稼働させる以外の時間をどれだけ短縮できるかというのが課題になってくると思います。翻って、長期的な目標で言うと、やはり人材の育成ですね。国内の人員だけで仕事ができるわけではありませんし、新しく入ってきた人がスムーズに作業できるような環境づくりをしていきたいと思っています。

最近のニュース

2019年6月に作業フロアを移動したことでですね。これまでには本社の2階部分で行っていたのを、今回は1階部分に移動しました。その中で、実際のところどれくらい効率がアップするのかというのは、残り今年の勝負どころだと言えますので、なかなかプレッシャーがあるところです(笑)

本社工場 マルチ部門へのメッセージ

いつも段取りの悪い私の指示をうまく汲み取って聞いてくれて、本当に感謝しかありません。引き続きよろしくお祈りします。